

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年11月19日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892000035		
法人名	株式会社 長寿館		
事業所名	小規模多機能型居宅介護 豊里長寿館	ユニット名	—
所在地	〒300-2642 茨城県つくば市高野1197-64		
自己評価作成日	平成24年5月7日	評価結果 市町村受理日	平成24年11月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報公表支援センターのホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_021_kani=true&amp;JigyosyoCd=0892000035-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=021">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_021_kani=true&amp;JigyosyoCd=0892000035-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=021</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年7月27日	評価確定日	平成24年11月2日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>利用者ひとりひとりのペースを大切にして、それぞれ役割や楽しみを持ちながら過ごしていけるようにしている。 人生の先輩として尊重し、お互いに支えあいの気持ちを持ちながら利用者と接している。 定期的なケアカンファレンス、勉強会を必ず実施して常にサービスの向上と自己啓発に努めている。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>管理者は職員の意見や要望を聴き入れて働きやすい職場の環境づくりに力を入れており、職員との信頼関係を築いている。 職員は小規模多機能型居宅介護の特長を活かし、通所サービスの送迎や訪問サービスなどで利用者と密に係わっており、利用者の状況を把握して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 月1回の会議や勉強会を実施し、サービスの質の向上と職員の自己啓発に努めている。</p>
---

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	”住み慣れた町でいつまでも生活していけるよう多彩なサービスを提供します”という職員全員で考えた理念をもとに、常に意識して業務にあたっている。	全職員で協議して作成した理念は、地域密着型サービスの意義を踏まえたものとなっている。 理念を玄関に掲示し、職員は出勤時に確認して実践に向けた取り組みをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所への散歩の時には挨拶を交わしたり、地域の祭りに協賛して観覧させてもらったり、近くの公民館で開催する催しに参加したりしている。	地域の小学生や中学生の職場体験を受け入れたり、アコーディオンやバイオリン演奏のボランティアを受け入れるなどで地域の人々との交流に努めているほか、利用者は職員と一緒に地域の祭りや公民館の行事などに参加しているが、地域の一員として日常的な交流をするまでには至っていない。	地域の清掃活動に参加したり、事業所便りを配布して事業所の行事に地域住民を招待するなど、積極的な働きかけを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所としての取り組みはないが、利用者宅からの情報で近隣住民の相談にのったり、職員は自宅の近所からの相談にのったりしている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	つくば市の指導に従い、3か月に1度開催している。事業所の活動報告や状況説明をして、より良いサービスに向けての意見をいただき運営の参考にしている。	運営推進会議は家族等や市職員、区長、民生委員、管理者、介護支援専門員で3ヶ月に1回開催している。 会議では事業所から活動報告や利用状況の説明、家族アンケートの結果を報告しているほか、市職員から報告を受けたり委員と意見交換を行い、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月開催されている つくば市地域密着型サービス連絡会に出席して情報交換したり、市役所に出向いて相談するなどしている。	管理者は月1回開催される「つくば市地域密着型サービス事業所連絡会」に出席し、事業所の実情やケアサービスの取組みを市職員に伝えたり情報交換を行い、協力関係を築いている。 相談事は市役所に出向き、市担当者の助言や協力を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	I S Oマニュアルにある身体拘束廃止手順を職員全員が周知しており、“身体拘束しないケア”について常に考えるようにしている。	管理者は月1回研修会を行い、身体拘束の内容とその弊害について職員の正しい理解を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 玄関や階段口、非常階段口は施錠しておらず、職員は利用者を見守ることで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 ベッドから転倒の危険性がある場合でもベッドを柵で囲むことはせず、転落防止のためベッドに大きな鈴を付けたり床に布団を敷くなどの工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の目につくところに指針の掲示をしたり、年に1度は勉強会の議題にとりあげている。また利用者と家族との関係についても注意を払うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の議題にとりあげて、知識を習得している。今後も知識を深めるための機会を作っていくつもりである。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず自宅訪問や来所していただき、納得していただけるまで説明するようにしている。また、わかりやすい表現や言葉を使うようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が話しやすい関係づくりに努めている。年1回のアンケート調査を実施して運営推進会議にて報告したり、苦情相談を受けつける窓口の情報提供もしている。	職員は送迎時や自宅訪問時に利用者や家族等から意見や要望を聴くように努めている。 年1回家族アンケートを実施して意見を汲みあげ、出た意見等は職員会議や運営推進会議で協議し、運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスで話し合ったり、個別に意見を聞く時間を設けている。まとまった意見を、週に1度の本部会議で提案するなどして運営に反映させている。	管理者は月1回の会議で職員の意見や要望を聞く機会を設けているほか、個人面談を行っている。 職員から出た意見等を検討し、備品を購入したり勤務体制の変更など、運営に反映させている。 日頃から職員が意見や提案を出し易い環境を築いているほか、個々の事情を汲み入れ、働き易い職場の環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとりひとりが目標を定め、常に向上心を持って働けるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別の研修計画を作成し、内外の研修に参加している。また、教育を受けるだけでなく教えていく機会もつくって実行している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市の連絡会にて開催されている研修に参加して、交流を深めたりしている。新設される事業所の見学に出かけたり、研修の受け入れも行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り本人の思いを聞き出し、希望する生活ができるよう考え、サービス内容をわかっただけのままで説明して安心して利用してもらえるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや希望を受け止め、本人と家族との思いの違いを理解しながら、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に「一番望んでいること困っていること」を聞き出し、解決できるような支援方法を考え出すことにしている。事前に、見学や体験サービスをすすめている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で出来ることは本人に任せ、難しい場面では一緒に行うなど、共に生活している気持ちを持ってもらえるような支援を常に考えて業務にあたっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族としての役割を持ち続けていただくよう、あらかじめ家族が行うことを決めるようにしている。送迎や訪問時にささいな事でも情報交換し、家族との連携を図るようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族から馴染みのものを聞き出して外出の際にその場所に寄ってみたり、知り合いの方にも気軽に来ていただけるように配慮している。	職員はアセスメントを活用したり利用者や家族等の話から利用者のこれまでの生活歴のほか、馴染みの人や場所を把握するとともに、馴染みの人がいつでも気軽に来訪できるようにお茶を出して持て成すことを心がけ、今までの関係が途切れないよう支援している。 職員は利用者が馴染みの駄菓子屋や近隣の神社へ初詣に行けるよう同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話を援助したり、共通する出来事を探し出したりして良い関係を保てるようにしている。座席も、状況に応じて変えるなどの対応をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等でサービスが終了しても利用者の状態を把握したり、家族の相談を受けるなどの関係をつないでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	まず本人や家族に聞いたり、日常のささいな出来事や言動から思いをくみ取れるよう気を配っている。	職員は利用者がその人らしい暮らしを続けられるように日常の会話を通して希望や意向を聴いたり、家族等から情報を得るとともに、終礼時に職員で話し合い、申し送りノートに記録して共有している。 意思表示が困難な利用者の場合は、日々の生活の中での表情や行動から利用者の思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できるだけ多くの情報を収集し、個別の様式を作成するなどして、全員が共有できるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の1日の暮らし方を大切にして、できることやわかることを見つけつけていけるよう、常に考えて業務にあたっている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いを尊重しながら、家族の要望や職員の気づきを参考に意見をまとめ、チームケアに取り組んでいる。	介護計画は介護支援専門員がサービス担当者会議を開催して利用者や家族等の希望のほか、主治医や職員の意見をまとめて作成し、6ヶ月に1回見直しているほか、利用者の心身の状態に変化が生じた場合はその都度見直し、利用者または家族等の同意を得ている。 介護計画は「居宅サービス計画書」と「個別援助計画書」を作成して月1回モニタリングを行い、結果を記録している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回のカンファレンスで意見交換や情報の共有をしている。毎日の記録からも気づきや改善点を見つけ、ケアプランに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模多機能型居宅介護の特性を生かし、本人や家族の急な要望にも、できる限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	アセスメントの段階から、本人が生活していくうえで利用している地域資源の把握に努め、関わり続けていけるようにしている。ボランティアや近隣の中学生の職場体験を受け入れたりして、地域の協力を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療機関をかかりつけ医にしている。通院の際に同行するなどして、日頃の様子を伝えたり、日常生活での注意点などの指導を受けたりしている。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援している。かかりつけ医への受診は原則家族等が付き添うことになっており、職員は利用者の状態を家族等に伝え、適切な受診ができるように支援しているほか、かかりつけ医に手紙や電話で直接連絡するなど良好な関係を築いている。受診結果は家族等から報告を受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の心身状態の変化や異常はすぐに報告することとし、蜜に情報交換するようにしている。バイタルや最近の様子を書類にし、受診時に知らせるなどしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への面会で本人の状態を確認したり、その際に病院関係者との情報交換を行っている。家族とも連絡を密にして、退院後のスムーズなサービス提供ができるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を把握するとともに、事業所の対応限界も明確にし、早い時期から関係者と話し合っ共通認識を持つようにしている。終末期ケアについての、マニュアルと同意書は作成してある。	重要事項説明書に看取り介護指針が明記されており、契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ている。 終末期ケアマニュアルを基に、利用者の状態に応じて段階毎に家族等に事業所でできることとできないことを説明して同意を得るとともに、医療関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所の取り組みとして救命講習の機会を設けて知識を深めたり、外部の研修に参加したりして職員全員が技術を習得するようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。夜間を想定した避難方法について消防署に相談し指導を受けるなどして訓練に生かしている。近隣住民の避難訓練への参加や協力を、継続して声かけているが、まだ実現していない。	年2回昼間や夜間を想定した避難訓練を実施するとともに、訓練の状況や反省点、今後に向けての課題などを全職員で話し合い、記録に残して次回の訓練に活かしている。 近隣住民に避難訓練への参加や協力を継続して働きかけているが、実現するまでには至っていない。 災害時に備え食糧や飲料水、毛布などを備蓄している。	災害時に備え、運営推進会議などを通して地域住民に避難訓練への参加を継続して働きかけ、協力体制を構築することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者ひとりひとりの個性に合わせて、対応している。方言などのわかりやすい言葉も使い、話しかけている。勉強会で接遇についても学び、敬意をもって接するようにしている。	職員は接遇研修を受講したり、利用者の個性を把握し、一人ひとりの人格を尊重しながらプライバシーを損ねない対応に努めている。 個人情報に関する書類は事務所に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に応じたわかりやすい説明や答えやすい問いかけをして、意思表示できるようにしている。言葉での表現が難しい利用者にも必ず声をかけ、表情などから理解するように努めている。	/		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその時々気持ちを尊重し、やりたいことを選択できるよう配慮したり、本人のペースに合わせた支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を取り入れるようにしている。ひとりで出来ない部分や不十分なところを、さりげなく手伝うようにしている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は一緒に食事をとり、家庭的な雰囲気をつくるようにしている。利用者のできる能力を見つけて、片付けや準備などを一緒に行っている。	食材は宅配業者に委託し、調理は事業所の厨房で作って温かい食事を提供している。 週1回は利用者が希望する献立を取り入れたり、月1回は季節に合わせた行事食で変化を付けるなど、食事が楽しみなものになるように努めている。 利用者はできる範囲で食事の準備や後片付けを職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	すぐに確認できるようなバイタル表を作成し、気づいたことは細かく記入するようにしている。ひとりひとりの状態や自宅での様子も把握して、とろみ食やお粥、温冷の飲み物などの提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	来所時や外出後のうがい、毎食後の口腔ケアを必ず行っている。出来ないところや不十分なところのみ介助している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者ひとりひとりの排泄パターンの把握に努めており、本人のペースに合わせたトイレ誘導、声かけをしている。状態の変化や状況に応じて、すぐに支援方法を見直すなどしている。	職員は健康チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らって声かけ誘導を行い、トイレで排泄ができるように支援している。 食事の前後や定期的な声かけを行い、失禁を減らす工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分摂取量には、常に注意を払い、排便の記録もわかりやすいよう記入している。家族と相談して服薬の調整をしたり、主治医の指導を受けて、予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	通いサービス利用に合わせての実施が多いが、その日の本人の希望や健康状態に応じて臨機応変に行っている。	毎日入浴ができる体制になっており、利用者の希望やタイミングに合わせて入浴ができるよう支援している。 柚子湯や菖蒲湯を取り入れたり入浴剤を利用するなど、利用者が入浴を楽しめるよう支援している。 入浴を拒む利用者には強要せず、タイミングを見計らって再度誘ってみたり、声かけする職員を替えるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅での生活に近づくよう、布団での就寝や畳での休息など、個別に対応している。夜間も、利用者のその時の状態に合わせて、入床の声かけや誘導を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容についての情報提供をうけ、職員全員が目を通すようにしている。変更があれば、すぐに確認したり、家族に情報をもらうなどして異変の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの嗜好に合わせて、好きなことができるように活動材料を提供したり、得意なことを維持できるように支援している。また能力に合った役割を持ってもらい無理のないように配慮している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段は 行けないような場所でも、本人の 希望を把握し、家族や地域の人々 と協力しながら出かけられるよう に支援している	日常的な買い物や散歩などは、本人 の希望に応じて個別に対応してい る。墓参りや普段行けない場所へ は、家族の協力が得られるよう働き かけている。	職員は利用者の希望にそって買い 物や散歩に付き添うなど、個別の外 出支援に努めている。 墓参りや普段行けない場所へは家 族等の協力が得られるよう働きか け、出かけられるように支援してい る。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人ひ とりの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援して いる	利用者の能力に応じて対応してい る。本人の管理能力に変化があれ ば、早めに察知して、家族と相談し て決めていくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電 話をしたり、手紙のやり取りがで きるように支援をしている	基本的に、自宅では家族にお願 いしている。一人暮らしの方には、本人 や周りの状況と、希望内容を良く見 極めてから対応するようにしてい る。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居 間、台所、食堂、浴室、トイレ 等）が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激（音、光、 色、広さ、温度など）がないよう に配慮し、生活感や季節感を採り 入れて、居心地よく過ごせるよう な工夫をしている	季節を感じられる花を飾ったり、ト イレや浴室にわかりやすく貼り紙を したりして、過ごしやすい環境づく りに努めている。また、利用者の感 覚を基準とした温度設定に気をつけ ている。	居間には利用者と職員と一緒に制 作した季節感あふれるちぎり絵や季 節行事の飾りつけがしてあり、温か い空間を演出している。 廊下には利用者の「百歳を祝う食 事会」の写真が掲示され、心を和ま せている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は固定せず、その日の気分や気の合う仲間同士で集まって過ごせるように気を配っている。個室を利用したりして、本人の過ごしやすいよう支援している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や物などを自宅から持ってきていただき、自宅と変わりにくく過ごせるようにしている。	利用者は泊まる際には馴染みの家具や使い慣れた物品を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。 職員は居室の掃除に注意を払い、利用者がいつでも心地よく過ごせるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室は個々の利用者に合わせた入浴方法がとれるような設備にしている。わかりやすい表示や目印をつけたり、わからない時にはすぐ気づいて、さりげなく対応するようにしている。			

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの ○3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が ○2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと ○3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input checked="" type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input checked="" type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目標達成計画

事業所名 小規模多機能型居宅介護 豊里長寿館

作成日 平成24年11月13日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		地域の一員として、日常的な交流の機会を持っていない	地域の一員である意識を持ち、交流を密にする	地域の清掃活動に参加したり、事業所独自でも地域の清掃活動を実施する。地域住民に運営推進会議への参加を呼びかけ出席してもらう。	6～7か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。